

イネ科通信 12

ダンチク

1. 分げつとは

イネ科植物の分枝を分げつといいます。「ぶんけつ」と書かれていることもありますが「蘗」の読み仮名は「げつ」ですので「ぶんげつ」と濁るのが正しい読みです。

2. ダンチク（ヨシタケ）



暖地の海辺や川岸に生える大型の多年草で、しばしば大群落となり、根茎は長くて木質、よく枝を分けます。高さ 2～4m、太さ 2～4cm にもなりますが、折れやすく、枝は短い。葉（葉身）は途中から垂れ下がります。（左の写真）

葉舌と葉耳（岡山理科大学波田研ホームページより引用）

イネ科植物の葉は、茎を取り囲んだ筒状の鞘となっており、「葉鞘（ようしょう）」と名付けられている。この葉鞘がやがて葉に移行するわけであるが、この葉と葉鞘の移行部を観察してみると、結構複雑でおもしろい。葉は風に吹かれて揺れ動き、結構強い力がかかるに違いない。茎は節から送り出されるように伸長するので、茎に固定するわけにはいかない。この力のかかる部分は肥厚して葉をしっかりと支えている。この肥厚部分が幅広くなると、「葉耳（ようじ）」と呼ばれる構造になる。画像の白い部分がそれである。葉鞘の先端部分には、薄い膜状の構造ができることがある。これらの構造物は種を同定するキーとして役立っている。（左は波田研ホームページの写真です）

写真 1 と 2 はダンチクの葉耳の写真（正面とその裏）です。

.....



写真 3 は葉鞘の上部を突き破って新芽が現れたところです。即ち分げつです。ヒトなら体の中からこんなものが現れたら思わず「痛い！」と叫びそうです。

写真 4 はさらに新芽が成長してきたところです。破れたところは修復されています。（写真 3 と 4 とは別々の個所です）

写真 5 は根元で分げつしていることが分かります。

